

—スタッフ—

役 職	スタッフ名
病院長	伊豆蔵 正明
がん治療センター長 兼外科主任部長	位藤 俊一
消化器センター長 兼部長	水野 均
部長	飯干 泰彦
Acute care surgery 副センター長 兼部長	山村 憲幸
医 長	西谷 暁子
医 長	藤井 仁
医 長	今里 光伸
医 長	藤井 亮知
医 員	児玉 匡
医 員	菊地 浩輔

—概要—

外科の診療内容としては、上部消化管、下部消化管、肝・胆・膵、乳腺・甲状腺外科および小児外科領域の専門医療を主に担当している。年間全身麻酔手術件数は、631件であり増加傾向にある。急性腹症や外傷に関しては救命救急センターとの連携によるAcute care surgeryセンターにて南大阪医療圏の緊急手術症例に対応している。上部消化管グループでは、早期胃癌に対しては、低侵襲な腹腔鏡下手術で合併症なく早期退院を図り、進行胃癌では化学療法奏効後に切除を行って予後延長を図っている。下部消化管（大腸）グループでは、腹腔鏡下手術を積極的に導入しており、1泊2日の大腸ポリープに対する内視鏡的粘膜切除術（EMR）も行っている。また、外科手術症例全般において、クリニカルパスによる定型化と簡便化をはかり、安全で質の高い治療を提供している。進行癌に対する化学療法においては、大阪大学との連携のもとに全国規模の臨床試験にも積極的に参加し、最新の治療法を導入するとともに、医師・看護師・薬剤師・ソーシャルワーカー・緩和チームなど多職種と連携したチーム医療により、きめ細かく丁寧な診療を行っている。さらに外来では、かかりつけ医との地域連携パスの推進により、日常診療のバックアップ体制の強化も行っている。悪性疾患に対する化学療法や分子標的治療は年間延べ約2千件を超える件数を行っており、増加の傾向にある。また、2013年の延べ入院患者数は約1万8千人であり、延べ外来患者数は約2万2千人である。

当科では外科医だけでなく、病理医、放射線科医、腫瘍内科医、薬剤師、看護師、検査技師と地域連携室やがん相談支援センター等と連携したチーム医療を実践しており、各症

例についてエビデンスにもとづく治療を中心に様々な治療オプションを検討し、治療方針を決定している。さらに、チーム医療に関して放射線診断医をはじめ多領域の専門家が参加するカンサーボードを積極的に行い治療方針決定において重要な役割を担っている。

新たな治療に関しては全国レベル、国際レベルの臨床試験や治験に積極的に参加しており、エビデンス構築の一役を担っている。消化器外科手術に関しては、腹腔鏡手術を積極的に取り入れ、侵襲の少ない根治的手術を行っている。また、胃瘻造設に関しては、内視鏡下だけでなく、安全かつ低侵襲な腹腔鏡下胃瘻造設術も行っている。食道、胃、大腸や直腸癌をはじめとする消化器悪性腫瘍に対する集学的治療を積極的に行っている。

乳腺、甲状腺疾患に関しては、良性、悪性を問わず全国から紹介を頂いており、精査、治療に対応している。早期乳がんでは研究的治療として限定した適応のもとにラジオ波焼灼療法を行なっている。

なお、当施設は小児外科の研修も可能な数少ない施設の一つであることも特徴としてあげられる。関西だけでなく全国の大学からの見学希望も多数あり、バラエティ豊富な手術症例を学んでいただき好評を博している。

外来診療に関しては、通常の外来診療以外に月曜日・火曜日に乳腺専門外来を、また火曜日にはストーマ外来を行っている。

【外科カンファレンス】



【病棟回診】



—実績—

【手術実績】

上部（食道・胃・十二指腸）	
食道癌	5
胃悪性腫瘍	52
胃・十二指腸潰瘍	10
その他	14
計	81
下部（小腸・大腸・肛門）	
結腸癌	49
直腸癌	30
その他悪性腫瘍	2
大腸良性疾患	68
イレウス	11
計	160
肝胆膵	
肝細胞癌	8
肝内胆管癌	1
転移性肝癌	6
胆管癌	3
膵癌	3
胆石・胆嚢炎	77
計	98
乳腺甲状腺	
乳癌	68
甲状腺癌	27
乳腺良性腫瘍	7
甲状腺良性病変	5
計	107
小児外科	
鼠径ヘルニア	34
臍ヘルニア（修復術・絆創膏固定術）	15
虫垂炎	8
肛門周囲腫瘍	5
尿管管遺残	4
腸重積	2
直腸ポリープ	1
計	69
その他	
ヘルニア	124
腹膜炎	7
計	131
総計	646

【外科手術】

